

令和5年度 四国山地緑の回廊
(剣山地区)
モニタリング調査
公表資料

令和6年3月

四 国 森 林 管 理 局

有限会社 エー環境研究所

四国山地緑の回廊 剣山地区

管轄森林管理局・署	四国森林管理局・徳島森林管理署・高知中部森林管理署・安芸森林管理署
所在地	三好市、那賀町、大豊町、香美市、馬路村、安芸市
面積	約 9,644 ha
設定年	設定：平成 15 年 3 月
緑の回廊の概要 (設定目的)	剣山を中心にして東西、南方面にのびる国有林野および民有林をつなぐ延長約 58km、幅約 2km の回廊である。西熊山生物群集保護林をはじめとする 8 箇所の保護林を結ぶ。設定面積は、約 9,644ha で、結ばれる保護林(約 1,376ha)を合わせると、約 11,020ha になる。



モニタリング調査の概要

実施年度	令和 5 年度
調査項目	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査、動物調査、聞き取り調査
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ■資料調査：既往文献・資料の収集、保護林情報図の作成 ■森林概況調査：樹木の生育状況の把握及び被害状況の把握、下層植生の生育状況の把握、病虫害、鳥獣害、気象害の発生状況の把握 ■森林詳細調査：高木層から草本層で毎木調査及び植生調査、概況平面図の作成、標準地断面模式図の作成 ■動物調査(哺乳類)：生息状況調査、巣箱かけ調査、ツキノワグマ調査、コウモリ調査、シカ被害調査、フィールドサイン調査 ■動物調査(鳥類)：ラインセンサス及びスポットセンサス
結果概要	<p>森林調査の結果、スギ植林であるプロット1およびプロット3では、間伐によりスギが減少し、亜高木層から草本層は種構成が変化していた。プロット1は、落葉広葉樹の侵入が目立ち、天然更新木が増加しつつあった。また、プロット3は、ニホンジカの食害による影響が顕著であり、過年度では林床を覆っていたスズタケが消失しており、ニホンジカの嗜好植物が増加していた。プロット2は、林床を覆っているミヤマクマザサにはニホンジカの食痕が多くみられ、リョウブが減少し、木本種の実生がほとんどみられなかったことから、ニホンジカの食害による影響を受けていると考えられる。</p> <p>動物調査の結果、プロット1ではツキノワグマやニホンモモンガなど確認され、プロット3ではカモシカなどが確認された。また、全プロットの周辺でツキノワグマの目撃情報があり、現況は、プロット周辺は動物の生息に適した森林であり、緑の回廊の機能が発揮されていると考えられた。一方、生息状況調査では、全プロットにおいてニホンジカの撮影割合が最も多く、ニホンジカの被害レベルも高いことから、防鹿柵の設置など、ニホンジカの食害への対策を検討する必要がある。</p>